有望な牧草「トランスバーラ」栽培による飼料費低減で所得アップ！

生産牛は，沖永良部，与論の農業産出額の３割を占める重要な品目です。
ここ数年の子牛価格低迷と飼料費の高騰で生産牛農家では所得が低迷しています。
所得アップのためには，経費の５割程度を占める飼料費を抑えることが重要で，良質な自給飼料確保が重要なポイントとなっています。
沖永良部，与論の主要な牧草「ローズグラス」は，サシ草等の雑草害による減収や栄養が低下する出穂期を過ぎてからの収穫遅れが多く，近年は「褐点病」※ による生育遅延も見られます。

※**褐点病**：ローズグラスの「カタンボラ」に見られるカビが原因の病気で，高温多湿条件で多く発生し，成長点が枯れるため生育遅れ（被害が大きいと全滅）となります。

こうした中，パンコラグラスという草種の「トランスバーラ」は，牛の嗜好性が良く，緻密な草地を永続的に形成するため，有望な牧草として期待が高く栽培面積が増えています。

＜トランスバーラの特徴＞

牛がよく食べ，湿害に強い

細茎のため，乾きやすく牛の嗜好性も非常に良いです。
根が地中深く入ることから，干ばつ，湿害にも強いです。

永続的な草地で雑草を抑制

植付後，１～２年は，雑草防除が必要ですが，一旦草地化すると緻密なマットを形成し，雑草も少ない永続的な草地となります。

出穂が少なく，高栄養を維持

年間に６～７回収穫でき，収量は，ローズグラスと同等で，出穂が少ないため栄養低下が少なく収穫適期期間が長いです。

※　種子繁殖でないため，さとうきびと同様に苗を植え付ける必要があります。
草地造成には以下の方法がありますが，植付後１週間は，土壌を乾燥させないことがポイントです。

① ばらまき法	根際から切った苗を土壌表面の１／３を覆うくらいまき，鎮圧する。
② 条植え法	根際の苗（ランナー）を筋状にまき，土を薄くかけた後，植付部分のみを鎮圧する。
③ 株植え法	掘り取った株を「１株／㎡」程度植え付け，植え付け部分のみを鎮圧する。

トランスバーラの「条植え」2か月後のほ場